

# 心ひとつに

弥富市立桜小学校  
学校だより  
No.15  
平成27年12月1日

## 「木は光を浴びて育つ、人は言葉を浴びて育つ」

桜小学校のお昼の清掃開始時刻は13:35分からです。しかしながら、みんなより早く、清掃区域の1階渡り廊下でぞうきんがけをやってくれている4年生児童がいます。「清掃は楽しい」と言いながら、とても仲よくやってくれている桜っ子に感心します。

また、お世話になっている先生に感謝の気持ちを込めて切り紙や折り紙を手渡してくれた2年生児童や3年生児童がいます。

学校の西門から出入りするお客様や職員やさの車を見つけると、急いで走って行って西門をあけてくれる優しい5年生児童や6年生児童もいます。

1年生児童も成長してきました。進んで先生の荷物を持ったり、困っている友だちを助けてくれたりする、優しい気遣いのできる子が増えてきました。

このように桜小学校では、人のために、友だちのために優しい行動がとれる桜っ子をたくさん見つけることができます。どうかご家庭でも、お子さんのいいところや成長点をたくさん見つけて、それを認め、褒めてくださることを願います。



## 全校朝礼の話よりー11月30日(月)

今日の全校合唱も素晴らしい歌声を聴かせてくれました。11月の学習発表会での全校合唱や各学年の合唱でも、保護者や地域の方からおほめの言葉をたくさんいただきました。素晴らしい合唱ができるということは、その集団がまとまりがあり、素晴らしい集団だということです。学級・学年・学校にまとまりがあり、質の高い集団ができている言えます。桜小学校は、素晴らしい学校だと思えます。

さて、今日は、がんばっている人がいるので、みなさんに紹介します。毎朝、運動場の外周をランニングしている3年生と1年生の兄弟を見かけます。朝は寒いし、もっとお布団の中で暖まっていたいと思うのが普通ですが、その兄弟は、早朝の寒さにも耐えて走っています。その姿に感心しますし、応援したくなります。素晴らしいことです。

また、スポーツの世界に目を向けると、28日(土曜日)、フィギュアスケートの羽生結弦選手が快挙を達成しました。それは、フィギュアスケート史上、初めての300点超え(322・40)です。しかも、SP・フリーともにノーミスでの演技です。羽生選手は、前回の大会で優勝できなかったのも、それから目の色を変えて練習し、今大会に臨んだようです。失敗でめげるのではなく、それを逆にバネにし、「絶対王者」をめざして強い意志で練習したそうです。

今日のお話は、そのことと関連して、「終わり良ければ全て良し」です。これは有名なことわざです。意味は、「物事は最終の結末がもっとも大事であり、多少のミスがあったとしても、結果がよければ高く評価される」ということです。

9月に2学期が始まって3か月、もう少しで2学期が終わります。「ミスをしてしまった」とか、「あれをもっとがんばっておけば良かった」と、くよくよしている人はいませんか？

でも、だいじょうぶです。終わりが一番大事です。あと17日間もあります。この17日間で、自分で一番やりたいこと、まだできてないこと、失敗したこと、に、「できない」と弱腰にならず、努力を続け、チャレンジしていきましょう。